松田毅一（まつだ きいち）　史學者、文學博士。大正十年五月一日香川縣生れ、平成九年五月十八日歿（一九二一―九七）。日歐交渉史、キリシタン史を研究。昭和十九年上智大學文學部史學科卒。歐洲留學後、二十六年清泉女子大學教授兼圖書館長、四十七年京都外國語大學大學院教授。この間、私立大學圖書館協會賞、ポルトガル政府よりC・O・ドン・エンリケ王子勲章受章。五十六年菊地寛賞、毎日出版文化賞受賞。筆名松田翠鳳。

譯書に、ヨハネス・ラウレス著『きりしたん史入門』（昭和二十二年七月）二十五日ルーペルト・エンデルレ書店）、同『織田信長とキリスト教』（昭和二十二年十月）二十五日中央出版社）、『メンデス・ピントの日本物語』（内題「メンデス・ピントの日本物語」昭和二十三年一月）二十日ドン・ボスコ社）等の他、原典完譯・ナロイス著『日本史』全十二巻（川崎桃太共訳）がある。

著書『きりしたん大名大友宗麟』（内題「きりしたん大名大友宗麟の生涯」昭和二十二年八月）二十日中央出版社）、『近畿キリシタン史話』（昭和二十四年六月五日中央出版社）、『キリシタン研究第一部四國篇』（昭和二十八年十一月五日創元社）、『じゃぱのろじい行脚』（昭和二十七年五月十日神奈川・自刊）、『南蛮史料の発見―よみがえる信長時代』（昭和二十九年十月五日中央公論社「中公新書」）、『大阪と外交―秀吉晩年の風貌』（昭和四十一年九月）二十日桃源社「桃源選書」）、『江戸　南蛮　東京』（昭和四十六年七月）二十日読売新聞社）、『黄金のゴア盛衰記―欧亜の接点を訪ねて』（昭和四十九年九月）二十日中央公論社）、

『キリシタン時代を歩く』（昭和五十六年七月二十五日中央公論社）、『フロイスの日本覚書―日本とヨーロッパの風習の違い』（L・ヨリッセン共著、昭和五十八年十月二十五日中央公論社「中公新書」）、『わたしの旅路―六十年』（昭和六十二年三月十五日文藝春秋）等。